

# 日本気象学会

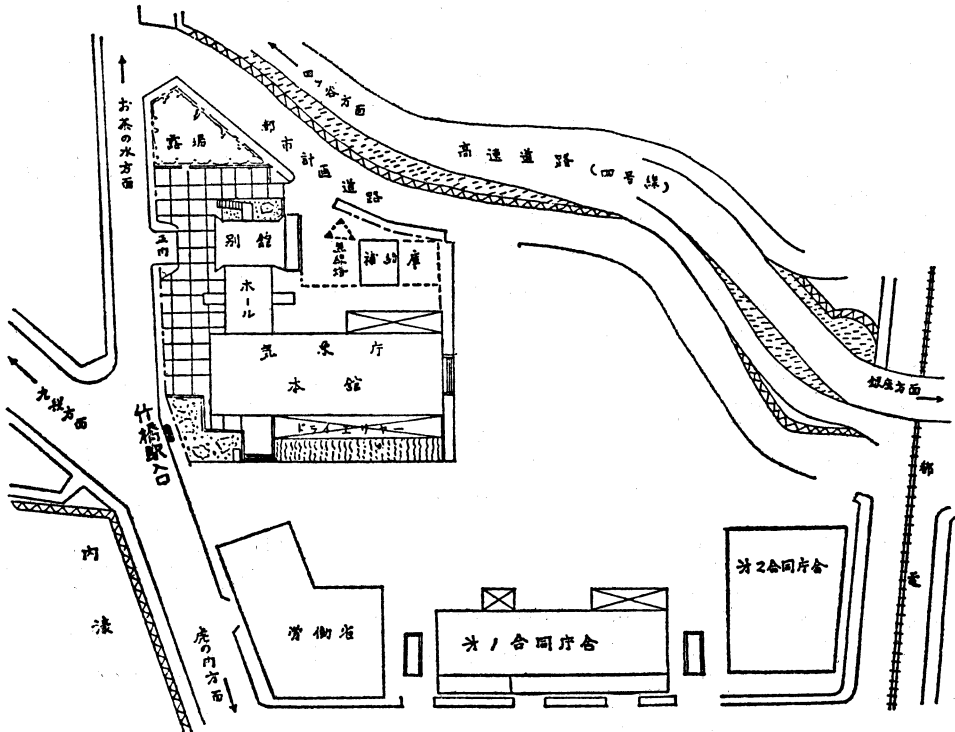
## 昭和46年春季大会

会期：昭和46年5月24日（月），25日（火），26日（水），27日（木）  
 会場：気象庁（東京都千代田区大手町1-3-4）

### 目 次

日本気象学会昭和46年度総会提出議題	146
大会行事予定表	147
総会次第	148
研究発表および会場一覧表	149~153
研究発表題目	153~174
研究発表要旨	146

### 会場案内図



（道順）地下鉄東西線 竹橋駅下車がもっとも便利です。

## 日本気象学会昭和46年度総会提出議題

### 1. 国際放射シンポジウムを日本気象学会が主催する件（理事会）

#### 提案理由

IUGG の放射委員会は国際放射シンポジウムをほぼ4年ごとに世界各地で開催してきたが1972年には仙台において開催したいむね、日本気象学会に申し入れてきた。本学会はこの申し入れをうけて気象庁や日本学術会議の協力を得て、これを主催することにしたい。

### 2. 気象学会の国際交流に関する長期計画を立案すること（新田 尚）

#### 提案理由

気象学会が、わが国の気象学研究に関係の深い諸国と、今後より一層緊密に連絡をとり、研究状況の通信、文献や情報、資料の交換、研究者の交流を推進させるために、長期計画を立案し、実行することが大変有用だと考える。

## “気象学への手引” 発刊のお知らせ

本書は“天気”に1969年から、まる2年間、24回にわたって連載された気象学入門講座を集録したものである。小冊子ではあるが、現代気象学を知るための手引として、気象学に関心を抱く方に、一人でも多く利用していただくことを願っている。

現代気象学は宇宙時代を迎え超高層大気までも研究領域に加え、大気物理学として飛躍的な発展を続けているが、その研究分野は多岐に広がり、第一線研究者でさえも自己の専門領域以外の分野に分け入ることは容易でなくなった。幸に、現在、各分野の最前線で活躍する会員の御協力で、よい道標が出来たと思う。

なお本書の編集にあたって、使いやすいよう掲載順序を整理し、巻末に天気に掲載された、“投稿論文の図の書き方”と“校正便覧”を加えて、利用者の便を計ったが、原文の修正は最小限にし、多少の不統一はあっても各分野の執筆者の苦心の滲み出た、微妙な原文の味を損なわぬようにした。本文巻頭のまえがきを書きかえなかったのもそのためである。記して読者の御理解を得たい。

日本気象学会  
天気編集委員会

注) なお、販売価格は100円位で、4月ころ発刊の予定です。

希望される方は学会事務局へお申込下さい。また本大会にでも販売致します。